

# 週刊センターニュース No.87



第87号(2005年11月28日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 第2回専門分野別教育開発セミナーのご案内

主催: 金沢大学大学教育開発・支援センター

テーマ: 「文系基礎とコア・カリキュラム」

日時: 平成17年12月11日(日) 13:30~17:30

開催趣旨: 一般教育と専門教育との有機的連携を目指す学士課程カリキュラム改革において、何をコモコアとして設定するかは大学の教育理念を色濃く反映するまさに核心的プロセスである。一方、近年の学生層の多様化は、学部教育の役割をより基礎的かつ広域的な教育へと移行させ、今年1月に  
出された中教審答申「我が国の高等教育の将来像」においては、学士課程について「教養教育」と「専門基礎教育」を中心とした再編が提言の一つとして述べられている。さらに、多くの学問分野において  
パラダイムの転換が起こり流動化する今、旧来からの学問分野の相互の関係性を全体から眺め、新しい学問分野をその系譜に取り込むことがカリキュラム編成を検討する上で求められる。

以上のような学士課程カリキュラム改革を取り巻く状況を踏まえ、本セミナーにおいては、文系基礎とは何かについて考えてみたい。文学、法学、経済学など人文社会領域に属する各学問分野において何がコアとして教育されるべきか、さらに流動化する各学問分野にまたがる共通基礎を考える必要があるのか、あるとすればその共通基礎とは何かについて講演、報告を基に議論したい。

会場: 金沢市西町教育研修館内金沢大学サテライト・プラザ3階集会室  
(北鉄バス「武蔵が辻」バス停より徒歩5分)  
金沢市西町3番丁16番地

参加申込: 電子メールまたはファックスにより、「第2回教育開発セミナー申し込み」として、平成17年12月8日(木)必着にて、氏名(ふりがな) 所属、連絡先(電子メールアドレスまたは電話番号)を明記の上、下記連絡先までお申し込みください。参加費は無料です。なお、セミナー終了後、金沢スカイホテルにて18時より情報交換会を会費3000円にて行います。情報交換会の出欠も合わせてお知らせください。

連絡先: 金沢大学 大学教育開発・支援センター 西山宣昭  
E-mail: [nnishiya@ge.kanazawa-u.ac.jp](mailto:nnishiya@ge.kanazawa-u.ac.jp) FAX: 076-234-4172

### プログラム:

- 13:30~13:40 開会の辞 鹿野勝彦(金沢大学教育担当理事・副学長)
- 13:40~14:40 基調講演 川嶋太津夫(神戸大学大学教育研究センター教授)  
「学士課程カリキュラムの在り方: 専攻を超えて」
- 14:40~14:50 休憩
- 14:50~15:35 第1報告: 鏡味治也(金沢大学文学部教授)  
「専門共通科目と文学部教育」
- 15:35~16:20 第2報告: 東川浩二(金沢大学法学部助教授)  
「導入教育としての法学概論」
- 16:20~16:30 休憩
- 16:30~17:25 ディスカッション
- 17:25~17:30 閉会の辞 青野 透(金沢大学大学教育開発・支援センター長)

## 福島大学の新しい教育システムについて

福島大学は、平成16年10月より、それまでの教育学部、行政社会学部、経済学部の3学部を改め、2学群4学類システムに移行した。この新しいシステムと本学における平成20年度からの3学域システムとは形式の上で類似点があると考えられる。ここでは、福島大学の資料等に基づき、この教育システムについて紹介したい。

新システムは、人文社会学群と理工学群とからなり、人文社会学群は人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類、理工学群は唯一、共生システム理工学類からそれぞれ構成されている。旧来の3学部より、理工系教員を理工学群（共生システム理工学類）に集めた形になっている。福島大学では理工系学部の新設を長く目指してきたが、新しいシステムにおいて実現した。ただし、教員数、学生定員は旧来のままである。入学定員の単位は各学類である。各学類は複数の専攻を持ち、学類内の専攻への配属は、2年への進級時に行われる。配属は、学生の希望と教務レベルでの調整による。但し、経済経営学類はGPAも使用している。

カリキュラムは、自己デザイン領域、共通領域、専門領域、自由選択領域からなる。自己デザイン領域の科目群は、教養と専門とを架橋するものと位置づけられている。この領域に含まれる教養演習は20年前から実施されている少人数ゼミナールであり、導入教育、スタディスキル学習を行う。通年で実施され、前期は主にスキル修得、後期はテーマを決めて学生主体で学習を進める。授業内容については担当者の得意分野に傾斜する傾向にある。担当者は学類で決める。担当教員の研修の必要性が指摘され、今年、FDでモデル授業が公開され、各担当者の参考に供される予定とのことである。同じく、自己デザイン領域に属するキャリア創造科目群は専門教育へのモチベーションと就職支援の性格を併せ持つ。科目「キャリア形成論」についてはWGが組織され授業内容が検討された。科目「キャリアモデル学習」については現在、各学類で検討中とのことである。

共通領域は、総合科目、広域選択科目、外国語科目、情報教育科目、健康・運動科目からなる。総合科目は、文理融合を謳って企画されたが、文理融合的な科目の新設はかなり難しく、現在もWGで検討中とのことである。この共通領域で特徴的なのは、外国語科目と情報教育科目である。これらは低年次のコアの科目としての位置づけではなく、4年一貫教育を念頭に設計されている。それぞれ、英語グレードアップ特修プログラム、情報グレードアップ特修プログラムとして、共通領域および専門領域に含まれる科目をパッケージ化し、ともに26単位を修得するとプログラム修了が認定される。副専攻的性格を持っている。

専門領域には、人文社会学群においては含まれる3つの学類で共通の学群共通科目、各学類内専攻に共通の学類共通科目が設定されている。理工学群（共生システム理工学類）においても学群共通科目、学類共通科目が設定されている。さらにこの専門領域には、他学類からの提供科目が含まれ、主に自由選択領域（人文社会学群の3学類では20単位、共生システム理工学類では4単位）の単位として履修する。これらの科目が学群、学類横断的性格を持ち、転学類のための必要単位となっている。

上に述べた学群共通科目、学類共通科目は、福島大学の教育システムにおけるコア科目と考えることができる。本学においても、学域共通として何を教育すべきかについての議論が今後のカリキュラム検討における最重要課題と思われる。

（大学教育研究開発部門 西山）